

令和 6 年 7 月 12 日
自己点検・評価委員会

はじめに 教育改革の推進と継続的な自己点検・評価の実施

聖徳大学は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命を実現するため、教育の内部質保証への取り組みに努めております。平成 30（2018）年度より教育研究活動等の状況について、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）に基づく評価基準を自ら設定し、継続的に点検及び評価を行い、「教育の質」及び「学生の学びの質」の向上に努めて 6 年が経過いたしました。その結果、本学の教育研究の水準は毎年着実に向上してきており、教育改革の推進とその特色ある先進的な取り組み内容の成果は社会からも一定以上の評価を得ております。

ここに令和 5（2023）年度の教育の内部質保証の取り組み結果について、以下のとおり公表いたします。

1. 学習成果の可視化・体系化（教育の質向上に向けた取り組み）

1-1 卒業認定・学位授与の方針で掲げる学習成果の可視化・体系化の取り組み

令和 5（2023）年度第 1 回自己点検・評価委員会において、教育の内部質保証について「学習成果達成状況の言語化」、「学習成果達成の情報公表」などの達成目標を設定し、各学部・学科においてその目標達成に向けて取り組みました。その結果、学習成果の獲得状況を、数値による客観的指標と学生自身の振り返りの言葉で公表し「学習成果達成の情報公表」に到達している学科も確認されています。これらの取り組みにより、学生の学習成果の獲得実感と成長実感、自己肯定感の向上に寄与していることは大きく評価できます。今後も各学部・学科において各取り組みの成果の検証と、必要な改善を重ね、より完成されたシステムへ進化させるとともに、取り組みにやや遅れが見られる学科は、他学科の好事例の共有や学科 FD 等を通して、大学全体としてのレベルの向上に取り組めます。

1-2 「Business Field Linkage®」による新時代における女性のリーダーシップの育成

大学での専門的な学びと実社会（ビジネス社会）を結び付ける実践的な授業である本学オリジナルの先進的な教育プログラムである「Business Field Linkage®」が進化し、副専攻としてスタートしました。令和 5（2023）年度より、20 単位を修得することで修了証書も授与され、就職活動の時に専門分野以外でも学んできたことを強みとしてアピールできるようになりました。本学への志望動機に「ビジネス・フィールド・リンケージに興味がある」という新入生の回答もあり、副専攻としての成果に注目してまいります。

2. 就職実績「実就職率全国第 1 位」を達成したキャリア教育の成果

令和 5（2023）年度も、クラス担任やゼミ担当教員を中心に学科とキャリア支援課による教職協働の連携強化に努めました。早期に学生への積極的な働きかけを行い就職意識の向上を図ることで、令和 5（2023）年度卒業生の実就職率は 97.4%となりました。3 年連続で全国女子大学において第 1 位（大学通信調べ）となった昨年度の 97.5%とほぼ同等の成果を収めました。

就職先についても上場企業、女性活躍企業（「くるみん」「えるぼし」認定企業）などから内定を得る学生が増えてきているなど、就職の大きな成果を上げてきています。一例として、看護学部の学生が多数、難関の国公立系病院に就職し、文学部の学生が大手航空会社のグループ企業に就職しています。また、公務員採用試験にも多数の学生が挑戦しております。今後も各学科とキャリア支援課の連携により、学生が希望する進路を実現できるよう支援をまいります。

3. 日本一面倒見の良い大学を目指した学生指導

令和5（2023）年度もクラス担任制をはじめとした少人数教育に取り組みました。クラス担任の他にも、ゼミ教員や、キャリア支援を担当する教職員など、一人の学生を複数の教職員で多方面から支援を行っています。令和5（2023）年度の教員一人当たり学生数は12.0人で、同系統の他大学平均25.1人（私立学校振興・共済事業団「活性化分析資料」より）の半分程度となっており、数値にもきめ細やかな指導を行っていることが表れています。こうした学生指導の成果は、毎年実施し集計・公表している「在学生の意識調査」、「卒業生の意識調査」において、本学のおすすめ度の理由として「教員との距離が近い・熱心な教員が多い」と回答する学生が多いことから読み取れます。今後も教職員一同で学生一人ひとりを支援し、「日本一面倒見の良い大学」を目指してまいります。

4. 多岐にわたる社会貢献・地域連携の取り組み

令和5（2023）年度も、児童学研究所・生涯学習研究所が主催の「アートパーク16～ニューワールド爆誕～」を9月10日（日）に開催したことをはじめ、各学部・学科においても、学科の特色や専門性を活かした地域貢献活動に取り組みました。一例として、人間栄養学部は料理レシピ掲載サイト「クックパッド」の松戸市公式キッチン「まつどのキッチン」に学生が考案したレシピを紹介し、松戸市、柏市、船橋市等の食育関連事業等に積極的に参加しました。音楽学部は松戸商工会議所とのコラボ企画として、飲食をしながら音楽を楽しむ空間をコンセプトにした「街角カフェ」に学生が出演するなど、地元松戸市のイベントに学生や教員が多数出演し好評を博しました。また、「高校生の体験発表会」を「ステージ発表型（21校23団体参加）」、「オンライン発表型（10校10団体）」の2つの形式で開催し、幅広い地域の高校生に対して、ボランティア等の地域貢献活動、授業・部活動等の教育活動等の多様な手法による発表の機会を提供しました。この取り組みにより、高校生同士の理解や啓発に寄与し、高校生自身の学びの更なる深化と一層の広がりにつながったと考えます。今後も大学のもつ知的資源を活かした社会貢献・地域連携活動を推進し、地域とともに発展していくことを目指します。

5. 幼児教育・介護福祉分野における国際連携の取り組み

令和5（2023）年度に、ベトナム社会主義共和国の国立ハノイ教育大学及び工科テクノロジー・技術短期大学の2校と学術・教育に関する連携協定を締結しました。国立ハノイ教育大学とは、両大学の学生及び教職員の交流や、現地での本学教職員による短期公開講座の実施など、主に幼児教育の分野での協力を目指していくことになりました。この協定に基づき、令和6（2024）年度に国立ハノイ大学教員を対象とした研修プログラム実施へ向けた検討も開始されました。また、工科テクノロジー・技術短期大学とは、日本での就業を希望するベトナム人介護人材の養成、主として介護・福祉分野における教育プログラ

ムの共同開発、教職員や学生の交流について協力をしていくことになりました。同校卒業生の令和9(2027)年度以降の本学心理・福祉学部社会福祉学科への編入学での受け入れに向けた準備が進んでいます。これらの取り組みは本学の先進的な教育が国際的にも高く評価されたことの成果だと考えます。今後もこれらの取り組みをさらに発展させ「世界に羽ばたく SEITOKU」として国際貢献を果たしていくことを目指します。

6. 「選ばれる大学」として定員充足への取り組み

急速な少子化の進行や、生成AIの普及、国際情勢の不安定化など高等教育を取り巻く環境は近年大きく変化しています。その渦中において、本学では過半数の学科が入学定員充足若しくは入学定員とほぼ同程度の入学者を確保できております。この結果は、各学部・学科において、教育内容を不断に見直し、改善に取り組み、本学ならではの教育の特色を打ち出してきたことに対する成果だと考えます。一方、入学定員を確保しきれていない学科については、引き続き学習者目線での教育改善に取り組み、教育内容をさらに魅力的なものとして、その社会的浸透を図ることが求められます。

退学者の抑制については各学部・学科において、対応ワーキンググループの設置や学科内での情報共有をする仕組みの構築など、様々な取り組みが行われ、中途退学者数及び中途退学率は減少しています。今後も退学者の抑制に取り組むとともに、退学に至る要因の特定と対策を進めることが必要とされます。

7. AI時代における特色ある人間教育と本物教育

本学の高い教育力の礎となっているのが「聖徳教育」です。「聖徳教育」は、建学の精神である「和」の精神を理解するための人間教育です。小笠原流礼法基礎講座、聖徳教育Ⅰ（建学の精神「和」を理解し、教育の理念を深める）、Ⅱ（学外の研修）、Ⅲ（聖徳基礎力）から構成されています。

7-1 小笠原流礼法基礎講座

本学の建学の精神である、「和」の精神の中心となる「礼」を学ぶ「礼法教育」は、聖徳の教育の柱の一つです。人と人とのコミュニケーションを円滑にする第一歩は「相手のことを大切にすること」であり、その「心」を形として表現したのが「礼法」です。礼法の源流である小笠原流礼法をとおして、社会で活躍するにふさわしい人間としての「心」と「形」を丁寧に身に付けていきます。小笠原流礼法は卒業後のアンケートでも、「今の自分にどの程度活かされているか」という設問で、「活かされている」という回答が非常に多く、本学を代表する教育の一つとして、高く評価されています。

7-2 グローバル時代の充実した海外研修

聖徳教育Ⅱの一つとして2年次または3年次に実施される海外研修は、学科・コースに関連する諸外国の教育、文化、生活を実際に見学・体験し、直接肌で感じることにより、それまでに学んだ机上での理論や専門知識の理解がさらに深まるとともに、日本との違いなど、多様な価値観を実体験するなど視野が広がり、大きな成長につながるプログラムです。「海外研修が魅力的で聖徳大学を志望した」という学生も少なくなく、本学を代表する教育の一つとして、高く評価されています。

7-3 先進的キャリア教育「聖徳夢プロジェクト」

「聖徳夢プロジェクト」は、キャリア教育のプロジェクトとして、「夢プロジェクト（聖徳教育Ⅲ）」と、教育課程外の「夢実現プロジェクト」から構成されています。学生一人ひとりが夢をデザインし、実現できるようサポートする入学から卒業までシームレス教育プログラムです。「夢プロジェクト」でロジカルシンキングや情報リテラシーといった主に基礎学力の向上を図り、「夢実現プロジェクト」で教職員や企業の人事担当者が面接官となり全学生の模擬面接を実施する「面接チャレンジ会」や、有名企業のトップを招き成功事例や体験談を生々の声で直接聞く「THE TOP INTERVIEW」などを通じて就職活動やその後の社会生活までを見据えたキャリア力を習得します。本学の圧倒的な実就職率を語る上で欠かせない重要な取り組みとなっており、高い成果を上げています。

まとめと今後の方向性

以上のとおり、本学の教育研究活動の点検・評価は有効に機能しており、改善が毎年進み、その成果も確実に現れてきています。本学は昨年度学園創立 90 周年を迎えました。令和 6（2024）年 1 月には、川並弘純理事長・学園長・学長より年頭所感で「”The SEITOKU”で 100 周年を目指す」という方針が示されました。これを踏まえ、本学は、今後も伝統を大切にしながら、教育研究活動においても変化を積極的に取り入れ、学習成果の可視化・体系化に努め、学習者目線での教育推進のため、自己点検・評価と改善の PDCA サイクルを回し、教育研究水準の更なる向上に取り組んでまいります。

以上